

检修「下廻り」合理化阻止へ

检修下廻り 対策委員会開催

日刊 動労千葉

83.1.18

No.1243

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「ヤミ・カラ」「悪慣行」「職場の荒廃」等々の悪意に満ちた反動的マスコミキャンペーンに始まった第二臨調Ⅱ行革攻撃は、乗車証改悪、現場協議改悪、仲裁々定未実施等の「緊急11項目」として、強められている。このことは、国鉄労働運動の圧殺、解体が、権力、当局の真の狙いであることを示しており、今日、检修「下廻り」合理化がその焦点となっている。動労千葉は、第7回定期大会決定方針に基づき、一九八二年九月一日、当局より提案された、「運転区所における車両检修業務の部外能力活用範囲の拡大等（检修下廻り民託合理化攻撃）」の阻止へ向けた闘いの具体的取組みを討議するため、一月二日、動力車会館において、検査、检修分科会を中心とする「检修下廻り対策委員会」を開催した。

具体的取組みの細部を討議

座長に、林検査・检修分科事務長を選出し、「『检修下廻り民託』合理化攻撃に対し、『三里塚、反合』闘争の路線のもと、有意義な討論を通じ、万全を期す体制を築いていこう」との座長のあいさつをうけて議事に入っていた。本部から関川委員長、布施交渉部長、片岡組織部長代行、森内特執、鶴岡特執、桜沢特執が出席し、関川委員長より大要次のようなあいさつをうけた。

関川委員長は「中曾根の登場で、『改憲』『軍事大国产化』へのピッチの早まり、『第二臨調』『国鉄再建』に名をかりた检修合理化攻撃等々、我々をとりまく情勢は、厳しいが、敵も苦しい。不当極まりない今回の合理化提案に対し、検査、检修の職場を守るため断固として闘おう」とあいさつした。続いて布施交渉部長より、

- ① 一年間の国鉄攻撃と闘いの経過（ヤミ・カラ）（緊急11項目）
 - ② 当面する闘い（反合、下廻り）
 - ③ 「下廻り」合理化提案の具体的内容
 - ④ 具体的取組み（闘いの組織化）を中心とする基調提起を受け、この提起に基づき、
- (一) 附帯的作業等の引取検査方法
 - (二) 機動検査班の作業内容
 - (三) 交番検査作業ダイヤ
 - (四) 外注および直営の作業内容
 - (五) 交検A・B充当人員
 - (六) 作業標準
- 等について、細部にわたる討論を行った。討論のなかで、

(イ) 引取り検査方法で書類（業務完了届）が多く、民託会社から書類チェックだけで責任

がもてる仕事ができるかどうか、引取り検査方法のなかで、直営側の機能試験、外観検査の部分がまだあるのではないか。

(ロ) 機動検査班の業務内容が多く提案通りの要員だけではできない。

(ハ) パート別の当局提案の要員だけでは作業安全の問題点が強く指摘された。

闘いを強化しよう！

最後に布施交渉部長より、今委員会のまとめとして、提案された「運転区所における車両業務の部外活用範囲の拡大等については、「作業安全」「運転保安」「輸送サービス」等の多くの問題点を内包している。この間我々は、「本社」Ⅱ「本部」間の交渉でも、生産点の作業実態を踏まえて指摘してきた。地方交渉においても、全ての責任を労働者に転嫁する車両检修業務の「民託化」を許すわけにはいかない。83春闘前段の情勢を切拓くためにも、本日の対策委員会の討論にふまえ、闘いを強化していきたいとの提起がなされ、参加者全員がこれを確認し、成功裡に終了した。

检修合理化攻撃粉碎へ向けて、動労千葉の総力をあげた闘いに決起していこう！

1・24全力で「检修合理化粉碎」青年部
総決起集会へ！
(17時30分、千葉鉄道管理局前)

